

第29回議会運営委員会会議記録

【開催日】 平成28年12月20日(火)

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午前11時7分

【出席委員】

委員長	大井 淳一郎	副委員長	河崎 平男
委員	石田 清廉	委員	下瀬 俊夫
委員	矢田 松夫		

【委員外議員等】

議長	尾山 信義	副議長	三浦 英統
----	-------	-----	-------

【事務局出席者】

事務局次長	清水 保	主査兼議事係長	田尾 忠久
庶務調査係主任主事	梅野 貴裕	議事係主任主事	原川 寛子

【付議事項】

- 1 全国市議会議長会からの要請について
- 2 平成28年第4回(12月)定例会に関する事項について
- 3 申し合わせ事項の変更について
- 4 市議会モニターの要綱について
- 5 その他

【議事の概要】

- 1 全国市議会議長会からの要請について
 - ・事務局から「地方議会議員の厚生年金への加入を求める意見書の提出等について」他市の状況や申合せ事項について説明した。
 - ・下瀬俊夫委員から「意見書の提出を見送った1市の理由が市民感情を考慮してということだが、どういう問題があるのか」との質問があった。
 - ・事務局から「市が半分負担することになるので、市の負担が増えるということである」との発言があった。
 - ・下瀬俊夫委員から「議員定数削減と同時に報酬の引上げは当然だという議論がある。幅広く議員になってもらうため、年金の対象にするのは当然だと思う」との発言があった。
 - ・大井淳一郎委員長から「かつての議員年金も自治体が半分負担するというものだったのか」との質問があった。
 - ・事務局から「基本的には同じような対応だったと思う」との発言があった。
 - ・大井淳一郎委員長から「厚生年金の加入を認めることによって若年層の議員の立候補を促すことができる。片や税金を使うことに対し市民から見てどうなのか。議会として意見書をどう取り扱うか議論したい」との発言があった。

- ・石田清廉委員から「以前あった議員年金がなぜ廃止になったのか1回振り返らないといけない」との発言があった。
- ・矢田松夫委員から「年金に加入することによって地方議員のなり手があるとは少し結び付かない気がする。元は議員を3期すると受給資格があったが、厚生年金はどうなのか。25年以上掛けないともらえないのか。厚生年金加入によって目的が達成するとは思わない」との発言があった。
- ・大井淳一郎委員長から「確かに因果関係はないのではないかと指摘はある」との発言があった。
- ・河崎平男副委員長から「あくまでも意見書ではあるが、今後考えさせられるべき案件という感じがする」との発言があった。
- ・下瀬俊夫委員から「以前の議員年金とは考え方が少し違うのではないかと。国のほうも年金加入期間を短くしようという動きがある。議員も一つの職業と見れば厚生年金は当然の措置ではないか」との発言があった。
- ・大井淳一郎委員長から「議員年金がなくなった背景は自治体が負担して市民が反発するという理由だけではなくて、議員がどんどん減っていく一方で支給しないといけないということで破綻するというのは聞いたことがある。厚生年金と議員年金は違うと思うので、もう少し調査、研究が要るのかもしれない。あり方委員会でも報酬や政務活動費を議論しているので併せて話をしてもいいかもしれない」との発言があった。
- ・矢田松夫委員から「厚生年金に加入することによってどのようなメリット、デメリットがあるのか議論の必要性があると思う」との発言があった。
- ・大井淳一郎委員長から「趣旨は何となく賛同できるけど意見書を議会で出すのは少し早いかと思う。会派に持ち帰って、あり方委員会でも検討していただき、結論を出していただければと思う」との発言があった。
- ・石田清廉委員から「厚生年金の制度、趣旨がよく分からないので、会派に持ち帰っても話がしにくい」との発言があった。
- ・下瀬俊夫委員から「何かデメリットがあるのか分からない。厚生年金の対象になるのなら若い人にとって議員も選択肢の一つになり得ると思う」との発言があった。
- ・矢田松夫委員から「半分負担になるという市民感情がデメリットと思う」との発言があった。
- ・下瀬俊夫委員から「以前なぜ議員年金が廃止になったのか。合併によって町村がなくなり負担できる財源がなくなるという面があった。しかしいまだに受給している元議員もいる。特別の共済を作ったということで特権に見えていた。今回は厚生年金だから世間一般の年金で大きなデメリットはないのではないかと」との発言があった。
- ・石田清廉委員から「私は既に後期高齢者に入るので、厚生年金に入る必要があるのか、何がどうなるのか、その辺がよく分からない」との発言があった。
- ・下瀬俊夫委員から「何歳になってもどこかに勤めると厚生年金の対象になるのではないかと」との発言があった。
- ・大井淳一郎委員長から「今回出さないといけないのか」との質問があった。
- ・尾山信義議長から「厚生年金に加入することによって若い人が議員になりやすい状況を作っていくということだが、時間が掛かるのもう少し煮詰めて早く出したほうがいいのではないかと」との発言があった。

- ・大井淳一郎委員長から「あり方のほうでも話を出してもらってもいいと思う」との発言があった。
- ・下瀬俊夫委員から「議運ではなくあり方特別委員会の提案になるのか」との発言があった。
- ・大井淳一郎委員長から「最終的には議運だが、一つの参考としてあり方で話し合ってもらったかどうか」との発言があった。
- ・事務局から「議長会に確認し、説明できる資料を出して議論していただくようにしたい。取扱いについては議運にかかっているので、違う委員会ではなく、この中で決めていただきたい」との発言があった。
- ・大井淳一郎委員長から「会派に持ち帰って、また無所属の議員には意見を聞きながら、全体的に調整を図っていききたい。今回は意見書は提出しないということにしたい」との発言があった。

2 平成28年第4回(12月)定例会に関する事項について

(1) 議案第127号の議事の流れについて

- ・議案第127号の採決方法について確認した。詳細は別添資料のとおり。

(2) 請願第1号について

- ・請願第1号の継続審査について確認した。
- ・矢田松夫委員から継続審査となった経過について質問があった。
- ・大井淳一郎委員長から「上がった理由は議運で議論するものではなく、産建の判断に従う。議運では日程変更の取扱いを審議する」との発言があった。
- ・下瀬俊夫委員から「今会期中の委員会で再審査の動議が出され、継続審査となったので、経過は担当委員長から一定の報告はあったほうがいいのか」との発言があった。
- ・事務局から再審査の動議と継続審査の理由について説明した。
- ・下瀬俊夫委員から「採決の結論そのものは変更になったのか」との質問があった。
- ・事務局から「産建から不採択の報告について撤回の申出が出ているので、委員会での採決はなかったこととなっている」との発言があった。
- ・下瀬俊夫委員から「議運としてはきちんと経過を踏まえて対応したほうがいいのか」との発言があった。
- ・事務局から「全協の議運決定事項の報告では時系列で分かる資料を作成したい」との発言があった。

(3) 議事日程変更案について

- ・請願の継続審査に係る議事日程の変更を確認した。

3 申し合わせ事項の変更について

- ・申合せ76について施政方針演説のない3月定例会の場合がなかったため、修正を行う旨説明し、了承した。詳細は別添資料のとおり。
- ・下瀬俊夫委員から「新市長の施政方針は6月なのか」との質問があった。
- ・事務局から「4年前は6月に行っている」との回答があった。
- ・矢田松夫委員から「代表質問は6月になるのか」との質問があった。
- ・大井淳一郎委員長から「施政方針と同じときと考えている」との発言があった。

4 市議会モニターの要綱について

- ・議会のあり方検討委員会で検討された要綱からの変更点について説明した。
- ・下瀬俊夫委員から「モニターの募集はいつ頃になるのか」との質問があった。
- ・事務局から「来年度予算に反映し、予算が執行できるようになったら速やかに行いたい」との発言があった。
- ・河崎平男副委員長から「議会基本条例にモニターは入っているのか」との質問があった。
- ・大井淳一郎委員長から「書いてはないが、条例上で読み取ることはできる。ただ条例制定時には想定していなかったツールも増えてきているので、議会基本条例の改正も必要であればしていきたい」との発言があった。

5 その他

(1) 3月定例会の日程調整案について

- ・3月定例会の日程調整案について説明し、了承した。日程の詳細は別添資料のとおり。
- ・下瀬俊夫委員から「市長が不出馬の意向なので一般質問の人数が少ないのではないか、予算も骨格なので日程が調整できるのではないか」との発言があった。
- ・事務局から「一般会計の日程は通常の3日より短くしている。早く終わっても休会という対応をしたい」との発言があった。
- ・大井淳一郎委員長から「流動的で大枠はこういう形で考えてほしい」との発言があった。

(2) 全員協議会の開催日時

- ・12月22日(木)午前9時30分(議運決定事項等)
- ・12月22日(木)本会議終了後(議会報告会)

(3) その他

- ・下瀬俊夫委員から「庁舎のカウンターに職員以外進入禁止の張り紙がされている。公民館や消防でも同様の対応である。これは議会活動に対して制限を加えるものである。一律にカウンター越しに話せということだが、委員会審査の内容など相談できる状況ではない。少なくとも議運等に報告し、議論の対象にすべきだと思う」との発言があった。
- ・大井淳一郎委員長から「取扱いについては預からせてほしい」との発言があった。
- ・矢田松夫委員から「既に実施されているなら議論を早くしないといけない。議員が対象なのか、市民が対象なのか、それらを含めて意図や目的は聞かないといけない」との発言があった。
- ・尾山信義議長から「申入れの結果として、新聞の配達や集金などの私的なことについては入ってはいけない、議会活動として話があるときは呼んで別の部屋や近くに行ってという対応をしていきたいという話があった」との発言があった。
- ・下瀬俊夫委員から「うちの議会は執行からなめられているのではないか。総務部長に聞くとマイナンバーの関係等で通知があったわけではなく、課長辺りからアンケートを採ったらそういう声があり対応したということで、市独自の対応だと聞いた。なぜ一斉にこういう対応をしたのか意味が分からない」との発言があった。
- ・大井淳一郎委員長から「議長から申入れをして一定の対応が示された。理由については明らかになっていないので、議運としてどう対応するかは預からせてほしい」との発言があった。

- ・下瀬俊夫委員から「議会不信だと面と向かって言われたようなものであり、これまでの努力がなくなってしまう。お互いの不信感が大きくならないようにしていただきたい」との発言があった。
- ・大井淳一郎委員長から「取扱いは預からせてもらい、取決めなどをお示しできれば」との発言があった。

平成28年(2016年)12月20日

議会運営委員長 大井 淳一郎